

# FIAT 500 TWINAIR

#03 | 2011年式 | 走行距離=67000km



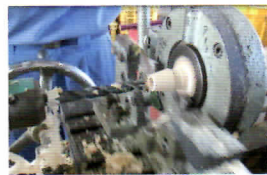
担当=310

先日の車検時にしっかりメンテナンスをしてもらったので、クルマの調子は絶好調。そろそろシートカバーを交換したいなあ。



## 全てがウッドで出来ている!

ラフィータのシフトノブは、ウッドを削り出して製作されている。カラーリングから最終仕上げの磨きに至るまで、全ての工程がハンドメイドだ。握りやすい形状と、ウッドならではの温もりのある感触が心地良い。



## Tipo PADDOCK PASS

# ボディカラーとコーディネートできる! シフトノブでイメチェン

文: 佐藤考洋 撮影: 葉袋荘次

取材協力: ラフィータ TEL: 090-6407-2897 HP: <https://www.lafita.net>

e-mail: [lafita500@gmail.com](mailto:lafita500@gmail.com)



フィアット500のボディカラーに合わせて、全5色がラインナップ。価格は1万2960円(税込)。購入方法はHPを!



現行のフィアット500がデビューしてから今年で11年目を迎える。そう聞くと「もうそんなに経つのかー」という思いと共に、次世代モデルの存在も気になる。次世代モデルについては、今のところ何の情報も伝わってこないけれど(きつと開発はしているはず)、未だ現行モデルが高い人気を得ているのだから、おそらく開発陣ものんびりやっているのだろう。

これほど人気が続くキープ出来ているのも、飽きのこないデザインの良さにあるような気がする。先日スーパーの駐車場で、沢山のスーパーカーが停まっていたけれど、手前味噌ながら500の存在感が一際輝いていた。フレンドリーなエクステリア、それに負けず劣らずポップなインテリア。インテリアは上質な素材を使っていないものの、デザインやボディカラー同色のパネルなど、シンプルながらもセンスの良さでチープな部分をカバーしている。しかし、そんな中でちょっと浮いている存在がデュアルジョックのシフトノブだ。マニュアルのシフトは丸いノブやブーツなどもあって室内の雰囲気とマッチしているのに、デュアルジョックだけは流用パーツのまま味気ない。そんなこともあって、500用のシフトノブはアフターパーツも多く存在している。その中でも先日見つけたユニー



取り付け方法は簡単。①まずはノーマルのシフトノブを取り外す。ノブの下部にあるリングをひねると、2分割されてスポッと抜ける。②FIAT500シフトノブをシャフトに挿入。③握りやすい場所を決めたら、2箇所あるイモネジを締めるだけ。作業時間はわずか10分程度だ。



インパネのパネルと同色なので、違和感なく溶け込む。むしろこれがスタンダードなような雰囲気だ。重量バランスなど、操作性も良好だ。

クシフトノブがあったので紹介したい。それがラフィータの「フィアット500シフトノブ」だ。ズバリな直球なネーミングだが、そう名乗るのもこだわりがあるからだろう。まず驚かされたのが、このノブの素材全てがウッドで出来ていることだった。一見すると樹脂製のように見えるが、丸々全てが木製なのだ。光沢のあるカラーは500のボディカラーと同じ色で塗装されている。だからインテリアとの親和性もいい。というか、むしろこれが純正なのではないかという雰囲気になる。形状はもちろんのこと、重量や重心バランスもしっかり考えられていて、操作性も良好だ。取り付けは簡単で、シャフトに差し込んでイモネジを2箇所留めるだけ。作業時間は10分もあれば完了する。シフトノブを交換しただけなのに、インテリアの雰囲気がいまより明るくなるのと同時に、ちょっとだけプレミアム感が増した印象となった。